

## 親の共感性及び寛容性と不適切な養育の関連 — 不適切な養育低群と高群の比較検討 —

本勝 仁士<sup>1</sup>・清水 寿代<sup>2</sup>

### The Association between Parental Empathy, Forgiveness, and Child Harsh Parenting — A Comparative Analysis of High and Low Child Maltreatment Groups —

Hitoshi HONSHO<sup>1</sup>, Hisayo SHIMIZU<sup>2</sup>

**Abstract:** This study aimed to compare high-harsh parenting (HP) and neglect mothers and low-HP and neglect mothers in terms of parental empathy and forgiveness. A total of 174 mothers with children aged 2 to 6 years old were recruited through an online platform (CrowdWorks). Mothers answered questions about trait empathy, forgiveness, their harsh parenting behaviors, neglectful parenting behaviors, and demographic factors such as their child's age. Subsequently, each subscale of HP and neglect was divided into high and low groups. The results of an unpaired t-test showed that parents who showed less physical and psychological aggression had higher perspective taking than the high HP group. Parents who were less neglectful demonstrated high levels of empathic concern and forgiveness over time, compared to those in high neglectful group. This finding suggests that empathy and forgiveness are related to harsh parenting and neglectful parenting.

**Keywords:** harsh parenting, neglectful parenting, empathy, forgiveness

#### 目 的

児童虐待は世界中で推計10億人以上の子どもが抱える問題である (Hillis et al., 2016)。不適切な養育は子どもの問題行動に苦慮した結果、厳しく罰するまたはしつづをあきらめて放任すること等とされている (井潤, 2010)。厚生労働省 (2023) によると、身体的虐待は殴る、蹴る、叩く、投げ落とす等が、心理的虐待は言葉による脅し、無視等が、ネグレクトは家に閉じ込める、食事を与えない、ひどく不潔にする等が挙げられる。未就学児の親を対象とした調査では、「大声で叱る」(98.4%)、「頭を叩く」(78.1%)をはじめとして未就学児の日常の子育てにおいても不適切な養育が起こることが明

らかになっている (李ら, 2012)。不適切な養育は多くの親が日常的に体験する事柄であるため、本研究では未就学児をもつ親を対象として検討を行う。

不適切な養育を受けた未就学児は身体的、社会的、情緒的、言語・認知的な就学準備性が低くなることが予想されている (Bell et al., 2018)。また、微細運動や粗大運動といった運動能力に遅れが見られること (Wade et al., 2017)、ネグレクトが肥満と関連すること (Whitaker et al., 2007)、身体的攻撃や心理的攻撃、身体的なネグレクトは睡眠時間の短さと関連すること (Wang et al., 2022) が指摘されている。

不適切な養育は様々なリスク要因の影響を受ける。不適切な養育のリスクは被虐待歴等の親の要因、対人反応性や多動等の子どもの要因、夫婦間葛藤等の家族の要因、経済的問題や孤立等の環境要因、文化的要因が考えられている

1 広島大学大学院人間社会科学研究科  
2 広島大学大学院人間社会科学研究科附属幼年教育研究施設

(Belsky, 1980)。親の要因として親子のかかわりや養育行動があり (Stith et al., 2009), これまで共感性や寛容性といった親の子どもへのかかわりと不適切な養育との関連について検討されてきた。

共感性は攻撃性との関連がみられている (Miller & Eisenberg, 1988)。共感性は広い意味では他者の体験を観察した時の反応を指すもので、感情的な側面と認知的な側面が存在する (Davis, 1983)。Davis (1980) は感情的な側面と認知的な側面を体系化し、「共感的関心」「個人的苦痛」「視点取得」「想像性」の4つの側面に分類した。共感的関心は同情など他者指向的感情の喚起されやすさの程度であり、個人的苦痛は他者の苦痛を観ることによって自己の不安や恐怖にとらわれてしまう程度である。また、視点取得は他者の視点に立ってその他者の気持ちを考える程度であり、想像性は物語の登場人物に自分を置き換えるよう想像する程度である。共感性は親と子どもの適応との関連が示されており、親に関しては、共感性は親の人生に対する満足感や自尊心の向上に寄与することが明らかにされている (Manczak et al., 2016)。また、親の共感性は、子どもの安定した愛着や他者への共感能力、肯定的な仲間関係の構築と関連することが示されている (Hu et al., 2020; Stern et al., 2015)。これらのことから、共感性は、親と子どもの心理的な適応に影響を及ぼしていることが分かる。

攻撃性と共感性について、日道他 (2017) では身体的攻撃と共感的関心および視点取得に負の相関関係がみられ、心理的攻撃と共感的関心に負の相関関係がみられた。常岡・高野 (2012) では、心理的攻撃と視点取得の関係について検討したところ、心理的攻撃を視点取得が抑制することが示された。身体的な攻撃については、共感的関心と視点取得が関連するという知見がみられている。心理的攻撃と共感的関心との関係は一貫しているものの、視点取得との関係に関しては知見が一貫していない。

ネグレクトと共感性に関して、母親のネグレクトと共感性や脳機能との関連について検討した Rodrigo et al. (2020) では、ネグレクトの母親はそうでない母親と比較して共感的関心が低く、脳の共感関連領域と母子の相互作用不良に関連する脳領域との関連がみられた。

これまでの研究から身体的攻撃や心理的攻撃と共感的関心や視点取得との関連、ネグレクト

と共感的関心との関連が示唆される。しかし、従来の研究では、育児場面における親の不適切な行動と共感性のかかわりについては検討が少ない。育児場面においても攻撃性と共感性との関連が見られれば、子育ての支援を通して不適切な養育の予防や再発防止のために役立てることができる。

一方、寛容性は攻撃性との関連がみられている (Webb et al., 2012)。寛容性は親子関係において、親と子どもとの関係性の質の向上に寄与する要因であることが示されている (Maio et al., 2008)。寛容性は攻撃された対象や事物、事象へのネガティブな感情・認知・行動をニュートラルまたはポジティブにすることと定義されている (Thompson et al., 2005)。寛容性は自己や他者といった対象によって異なるはたらきをし、長内・古川 (2005) では「自己・状況への寛容」と「他者への寛容」が考えられている。

攻撃性と寛容性について、大学生を対象とした研究では、自己への寛容性と他者への寛容性が高い場合に身体的攻撃や心理的攻撃が少なくなることが予測された (Webb et al., 2012)。Eaton & Struthers (2006) では、同僚、友人、恋人を対象に道徳に反したことをされた体験を尋ね、その体験についての責任、後悔、同情、怒り、寛容性について調べた。その結果、すべての対象で寛容性が心理的攻撃を低めることが予測された。

これまでの研究から、身体的攻撃や心理的攻撃と寛容性が関連することが示されている。子育て場面において、子どもの問題行動によって母親が苦慮することは多い。子どもの問題行動に苦慮し、その結果として不適切な養育に陥ってしまう親の寛容性について検討することで、親がネガティブな感情や認知や行動をどのように扱うかについて検証することが可能である。また、親の不適切な養育と寛容性についての研究は少ない。検証によって不適切な養育の予防や援助方法についての検討の一助となる。

以上から、本研究の目的は不適切な養育を行うことが少ない親と多い親で親の共感性、寛容性に違いが見られるか検討することである。本研究の仮説は第1に身体的攻撃および心理的攻撃の少ない親は多い親より共感的関心と視点取得が高いことである。第2にネグレクトの少ない親は多い親より共感的関心が高いことである。第3に不適切な養育の少ない親は多い親より他者への寛容性および自己・状況への寛容性

が高いことである。

## 方法

**調査対象者** クラウドソーシングサービス「クラウドワークス」に登録している2-6歳の子どもを持つ母親200名がGoogle Formのアンケートに回答した。回答された内、不備の見られた26名を除いた174名を有効回答とした。

**調査方法** 調査は2021年12月3日から12月6日にかけて実施した。クラウドソーシングサービス「クラウドワークス」上にGoogle Formで作成したアンケートのURLを掲載して参加者を募集した。回答終了後、クラウドワークスを通して謝礼金を支払った。

### 調査内容

1. 属性 母親の年齢、性別、就業形態、最終学歴、子どもの人数、子どもの年齢、子どもの通っている施設の形態、同居家族の内訳について尋ねた。

2. 共感性 日本語版対人反応性指標（日道他, 2017）を用いた。日本語版対人反応性指標（日道他, 2017）は「共感的関心」「個人的苦痛」「視点取得」「想像性」と「逆転項目のワーディング効果」による5因子構造が採用された。本研究では「共感的関心」「個人的苦痛」「視点取得」の3因子について各7項目全21項目を尋ねた。「想像性」因子については先行研究において母親の不適切な養育との関連が見られていない（Meidan & Uzefovsky, 2020）ことから本研究では取り扱わなかった。全く当てはまらない（1点）-非常に当てはまる（5点）の5件法で尋ねた。

3. 寛容性 日本語版寛容性尺度（長内・古川, 2005）を用いた。日本語版寛容性尺度は「自己・状況に対する寛容」と「他者に対する寛容」の2因子で構成された。「自己・状況に対する寛容」の9項目と「他者に対する寛容」の5項目、全14項目について尋ねた。全く当てはまらない（1点）-非常に当てはまる（7点）の7件法で尋ねた。

4. 不適切な養育（適切な養育・身体的攻撃・心理的攻撃） Parent-Child Conflict Tactics Scale（Straus et al., 1998）は「適切な養育」「心理的攻撃」「身体的攻撃」「深刻な身体的攻撃」「大変深刻な身体的攻撃」「ネグレクト」「性的に不適切な養育」の下位尺度で構成された。本研究では、研究目的により「適切な養育」「心理的攻撃」「身体的攻撃」の3つの下位尺度、全14項目を

使用した。Straus et al. (1998)を参考に、1年間のうちに以下の行動をどの程度行ったか尋ねる教示文のもと、1度も行っていない（0点）、1度行った（1点）、2度行った（2点）、3-5回行った（3点）、6-10回行った（4点）、11-20回行った（5点）、20回以上行った（6点）、この1年間だけでなくこれまで1度も行ってない（0点）の8件法で尋ねた。

5. 不適切な養育（ネグレクト） Short Form of the Mother-Child Neglect Scale（Lounds et al., 2004）は8項目であったが、本研究では調査対象者の子どもの年齢を踏まえ「子どもの宿題を手伝う」の1項目を除外し全7項目を尋ねた。回答方法は全く当てはまらない（1点）-非常に当てはまる（7点）の7件法で尋ねた。

**倫理的配慮** 参加者への倫理的配慮として、回答は任意であることやデータは統計的に処理され個人が特定されることはないことをアンケートの1ページ目で記載した。また、1ページ目最後の「同意する」を選択した調査対象者のみアンケートへの回答を行うことができる仕組みをとった。調査対象者が回答にあたり苦痛を感じた際の相談窓口として調査実施者及び指導教員の名前と所属、連絡先を記載した。調査によって取得されたデータや統計処理のされたデータはパスワードのかかっているUSBに保存した。USBは鍵付きのロッカーにて保管された。

## 結果

分析にはHADon17 206（清水, 2016）を用いた。

**調査対象者の属性** 年齢の範囲は22-48歳（ $M=35.43$ ,  $SD=27.53$ ）であった。就業形態は専業主婦が92人（50.55%）、パートタイムが51人（28.02%）、フルタイムが35人（19.23%）、その他が4人（2.20%）であった。最終学歴は大学院が4人（2.20%）、大学（4年制）が93人（51.10%）、短期大学が26人（14.29%）、専門学校が22人（12.09%）、高等学校が35人（19.23%）、中学校が2人（1.10%）であった。子どもの年齢の範囲は2歳-6歳（ $M=4.22$ ,  $SD=1.19$ ）であった。子どもの人数の範囲は1-5人（ $M=1.76$ ,  $SD=0.80$ ）であった。子どもの通っている施設は幼稚園が78人（42.86%）、保育園が56人（30.77%）、認定こども園が24人（13.19%）、通所していないが22人（12.09%）、その他が2人（1.10%）であった。

共感性尺度は先行研究の因子を想定し、確認

的因子分析を行い因子負荷量や共通性に問題のあった4項目を削除した。寛容性尺度は探索的因子分析を行った結果、因子負荷量や共通性に問題のあった1項目を削除し「他者への寛容性」「自己・状況への寛容性」「時間経過を伴う寛容性」の3因子を採用した。不適切な養育（適切な養育、身体的攻撃、心理的攻撃）は、確認的因子分析を行い、因子負荷量や共通性に問題のあった4項目を削除した。不適切な養育（ネグレクト）は、確認的因子分析を行い因子負荷量や共通性に問題のあった2項目を削除した。以上の結果をもとに相関分析、対応のない*t*検定を行った。対応のない*t*検定では、不適切な養育得点の平均値を基準に低群と高群に分けて分析を行った。

**不適切な養育と共感性・寛容性の関連** 変数間の関連を検討するため相関分析を行った (Table 1)。不適切な養育と共感性について、適切な養育は共感的関心と有意に正の相関関係がみられた ( $r=.33, p<.01$ )。身体的攻撃は視点取得と有意傾向に負の相関関係がみられた ( $r=-.13, p<.10$ )。心理的攻撃は個人的苦痛と有意傾向に正の相関関係がみられ ( $r=.13, p<.10$ )、視点取得と有意に負の相関関係がみられた ( $r=-.23, p<.01$ )。ネグレクトは共感的関心と有意に負の相関関係がみられ ( $r=-.20, p<.01$ )、個人的苦痛と有意に正の相関関係がみられた ( $r=.17, p<.05$ )。

寛容性と不適切な養育について、心理的攻撃は自己・状況への寛容性と有意に負の相関関係がみられた ( $r=-.16, p<.05$ )。ネグレクトは時間経過を伴う寛容性と有意に負の相関関係がみられた ( $r=-.30, p<.01$ )。

次に、不適切な養育各下位尺度の高得点群と低得点群で親の属性、共感性、寛容性の各下位尺度の平均値の差を検討するため対応のない*t*検定を行った。

適切な養育は低群が高群より共感的関心が有意に低かった ( $t(172)=-3.61, p=.00, d=-.55$ ) (Table 2)。

身体的攻撃は低群が高群より子どもの人数が有意傾向に低く ( $t(172)=-1.66, p=.10, d=-.26$ )、視点取得が有意傾向に高かった ( $t(172)=2.02, p=.04, d=.32$ ) (Table 3)。

心理的攻撃は低群が高群より親の年齢が有意傾向に低く ( $t(172)=-1.40, p=.08, d=-.27$ )、視点取得が有意に高かった ( $t(172)=2.81, p=.01, d=.44$ ) (Table 4)。

ネグレクトは低群が高群より共感的関心が有意に高く ( $t(172)=3.24, p=.00, d=.51$ )、時間経過を伴う寛容性が有意に高かった ( $t(172)=3.00, p=.00, d=.48$ ) (Table 5)。

## 考 察

本研究では未就学児の子どもを持つ親を対象に不適切な養育を行うことが少ない親と多い親とで共感性、寛容性に違いがみられるか検討を行った。その結果、不適切な養育の少ない親は多い親に比べて共感性及び寛容性が高い可能性が示唆された。

まず、親の身体的攻撃および心理的攻撃と共感性の関連について、身体的攻撃と心理的攻撃の少ない親は多い親と比べて視点取得が高いことが示された。このことから、未就学児の子育ての中で子どもの問題行動に苦慮し叩いてしまう等の身体的攻撃が少ない親と言葉による脅し

Table 1 下位尺度間の相関分析

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1. 年齢	—											
2. 子どもの人数	.04	—										
3. 子どもの年齢	.14 <sup>†</sup>	.14 <sup>†</sup>	—									
4. 共感的関心	.12	.07	.04	—								
5. 個人的苦痛	.05	-.10	.04	.16 <sup>*</sup>	—							
6. 視点取得	.03	-.15 <sup>*</sup>	.04	-.04	-.07	—						
7. 他者への寛容性	.00	-.00	.07	.06	.13 <sup>†</sup>	-.08	—					
8. 自己・状況への寛容性	.09	.06	.06	-.06	.04	-.49 <sup>**</sup>	.21 <sup>**</sup>	—				
9. 時間経過を伴う寛容性	.06	.09	-.08	.14 <sup>†</sup>	.21 <sup>**</sup>	-.30 <sup>**</sup>	.24 <sup>**</sup>	.11	—			
10. 適切な養育	-.01	.17 <sup>*</sup>	-.10	.33 <sup>**</sup>	.01	-.01	.02	-.00	.05	—		
11. 身体的攻撃	-.00	.22 <sup>**</sup>	.01	.00	-.13 <sup>†</sup>	.06	-.11	-.08	-.02	.18 <sup>*</sup>	—	
12. 心理的攻撃	.08	.12	-.04	-.07	-.23 <sup>**</sup>	.13 <sup>†</sup>	-.11	-.16 <sup>*</sup>	-.04	.14 <sup>†</sup>	.69 <sup>**</sup>	—
13. ネグレクト	.02	-.08	.05	-.20 <sup>**</sup>	-.05	.17 <sup>*</sup>	.01	-.01	-.30 <sup>**</sup>	-.22 <sup>**</sup>	.04	.12

<sup>\*\*</sup> $p<.01$ , <sup>\*</sup> $p<.05$ , <sup>†</sup> $p<.10$

Table 2 適切な養育低群と高群における属性、共感性、寛容性の平均値、標準偏差およびt検定の結果

	低群 (n=72)	高群 (n=102)	t 値
	M	M	
属性			
母親の年齢	34.99 (5.40)	35.78 (4.98)	-0.99
子どもの年齢	4.36 (1.20)	4.15 (1.18)	1.17
子どもの人数	1.61 (.73)	1.86 (.85)	-1.48
共感性			
共感的関心	25.82 (3.52)	27.78 (3.52)	-3.61 **
個人的苦痛	21.81 (4.68)	21.76 (4.58)	.07
視点取得	16.33 (3.60)	16.09 (3.52)	.45
寛容性			
他者への寛容性	15.97 (5.03)	16.56 (5.31)	-0.73
自己・状況への寛容性	13.03 (4.12)	13.31 (4.41)	-0.43
時間経過を伴う寛容性	20.29 (3.63)	20.61 (3.92)	-0.54

\*\*p<.01, \*p<.05, †p<.10  
( ) 内は標準偏差

Table 3 身体的攻撃低群と高群における属性、共感性、寛容性の平均値、標準偏差およびt検定の結果

	低群 (n=111)	高群 (n=63)	t 値
	M	M	
属性			
母親の年齢	35.42 (4.97)	35.49 (5.51)	-0.08
子どもの年齢	4.24 (1.25)	4.22 (1.10)	.11
子どもの人数	1.71 (.77)	1.92 (.85)	-1.66 †
共感性			
共感的関心	26.95 (3.82)	27.00 (3.32)	-0.09
個人的苦痛	21.38 (4.54)	22.48 (4.68)	-1.52
視点取得	16.60 (3.61)	15.48 (3.33)	2.02 *
寛容性			
他者への寛容性	16.78 (4.85)	15.51 (5.70)	1.55
自己・状況への寛容性	13.41 (4.58)	12.83 (3.72)	.86
時間経過を伴う寛容性	20.64 (3.74)	20.19 (3.90)	.75

\*\*p<.01, \*p<.05, †p<.10  
( ) 内は標準偏差

Table 4 心理的攻撃低群と高群における属性、共感性、寛容性の平均値、標準偏差およびt検定の結果

	低群 (n=108)	高群 (n=66)	t 値
	M	M	
属性			
母親の年齢	34.92 (5.12)	36.32 (5.13)	-1.75 †
子どもの年齢	4.28 (1.24)	4.17 (1.10)	.60
子どもの人数	1.75 (.82)	1.85 (.10)	-0.79
共感性			
共感的関心	27.09 (3.75)	26.76 (3.47)	.59
個人的苦痛	21.45 (4.31)	22.30 (5.05)	-1.18
視点取得	16.77 (3.68)	15.24 (3.12)	2.81 **
寛容性			
他者への寛容性	16.77 (5.04)	15.58 (5.38)	1.48
自己・状況への寛容性	13.48 (4.49)	12.73 (3.91)	1.13
時間経過を伴う寛容性	20.67 (3.67)	20.17 (4.00)	.84

\*\*p<.01, \*p<.05, †p<.10  
( ) 内は標準偏差

Table 5 ネグレクト低群と高群における属性、共感性、寛容性の平均値、標準偏差およびt検定の結果

	低群 (n=114)	高群 (n=60)	t 値
	M	M	
属性			
母親の年齢	35.40 (4.84)	35.53 (5.74)	-0.16
子どもの年齢	4.24 (1.21)	4.23 (1.17)	.02
子どもの人数	1.83 (.78)	1.70 (.85)	1.04
共感性			
共感的関心	27.60 (3.55)	25.77 (3.52)	3.24 **
個人的苦痛	21.50 (4.28)	22.30 (4.56)	-1.09
視点取得	16.21 (3.57)	16.15 (3.53)	.11
寛容性			
他者への寛容性	16.07 (5.39)	16.78 (4.79)	-0.86
自己・状況への寛容性	13.25 (4.47)	13.08 (3.93)	.25
時間経過を伴う寛容性	21.09 (3.66)	19.32 (3.80)	3.00 **

\*\*p<.01, \*p<.05, †p<.10  
( ) 内は標準偏差

等の心理的攻撃が少ない親はそれぞれ多い親と比べて他者の視点に立ってその他者の気持ちを考える程度が高いことが考えられる。これは、身体的攻撃と視点取得に関連がみられていること(日道他, 2017)、心理的攻撃を視点取得が抑制すること(常岡・高野, 2012)、といった

先行研究の結果と一致している。

一方、身体的攻撃および心理的攻撃の少ない親と多い親との間で共感的関心に明らかな違いはみられなかった。本研究では、身体的攻撃や心理的攻撃を親と子どもの間でみられるものに限定したことによる影響が考えられる。親から

子どもへの身体的攻撃のリスクを検討した Prez-Albeniz & de Paul (2004) では、身体的攻撃の少ない親は多い親と比較して視点取得が高いことが示されているものの、共感的関心については明確な違いはみられていない。このことから親から子どもへの身体的攻撃や心理的攻撃については共感的関心が関連しないことが考えられる。

次に、ネグレクトと共感性について、ネグレクトの少ない親は多い親と比べて共感的関心が高いことが示された。このことから、未就学児の子育ての中で子どもの問題行動に苦慮し食事の提供をしないことや子どもを清潔に保たない等のネグレクトの少ない親は多い親よりも同情などの他者指向的感情が喚起されやすいことが考えられる。このことはネグレクトの母親はそうでない母親よりも共感的関心が低い (Rodrigo et al., 2019) という先行研究と一致する。共感的関心は適切な養育とも関連がみられた。親の他者指向的感情の喚起のされやすさが養育行動の質に関連する可能性が考えられる。

次に、不適切な養育と寛容性の関連について、ネグレクトの少ない親は多い親と比べて時間経過を伴う寛容性が高いことが示された。このことは、寛容性が長期的に親と子どもとの葛藤の解消や親近感の向上、関係性の質の向上につながる (Maio et al., 2008) や寛容性の高さが回避行動の低さと関連すること (McCullough et al., 1997) といった先行研究と一致する。一方で、親の身体的攻撃や心理的攻撃の少ない親と多い親との間で寛容性について明らかな違いはみられなかった。寛容性は攻撃された対象へのネガティブな感情や認知や行動をニュートラルまたはポジティブにすることである。しかし、本研究では寛容性と攻撃行動について検討した Eaton & Struthers (2006) とは異なり、親が子どものかかわりを通してどれほど不快感を抱いたか、裏切られた体験があったかについては検討を行っていない。今後は不適切な養育と寛容性の関連を検討する中で親と子どもとの間の詳細なかかわりを検討することが必要であると考えられる。

未就学児を持つ親の不適切な養育において、身体的攻撃および心理的攻撃の少ない親では視点取得が、ネグレクトの少ない親では共感的関心および時間経過を伴う寛容性が高いことが示唆された。これまで不適切な養育それぞれにおいて共感性や寛容性がどのように関連するかは

検討が進んでいなかった。そのため、本研究は不適切な養育と共感性や寛容性の関連についての検討の一助となると考えられる。

子どもの行動に苦慮している親に周囲の専門家が不適切な養育ごとの共感性の働きを踏まえて助言等を行うことによって、不適切な養育の予防につながる可能性が示された。未就学児を持つ親が不適切な養育の問題に対処していくことで、子どもの就学準備性や健康の問題が改善することにつながる。

本研究の限界と課題として、まず第1に本研究はオンラインでの質問紙法を利用した横断研究であることが挙げられる。回答者の回答に偏りがなくどうか等参加者の虚偽回答について検討を行ったものの、回答者が属性を偽っている可能性や養育行動について正しく回答していない可能性が考えられる。

第2に、本研究では不適切な養育と共感性及び寛容性の関係について検討を行えなかったことが挙げられる。これまでの先行研究では親の共感性から不適切な養育への関係や親の寛容性から不適切な養育への関係については検討が少ない。今後、親の共感性や寛容性から各不適切な養育への関係について検討することが必要であると考えられる。

第3に、使用した尺度についての課題が考えられる。共感性について、本研究では親の他者一般に対する共感性について検討を行ったため、養育場面での親の子どもへの共感性について検討することができていない。今後、親の養育場面での共感性について検討することで養育行動についてより詳細な検討が行えると考えられる。

## 引用文献

- Bell, M. F., Bayliss, D. M., Glauert, R. & Ohan, J. L. (2018). School readiness of maltreated children: Associations of timing, type, and chronicity of maltreatment. *Child Abuse & Neglect*, **76**, 426-439.
- Belsky, J. (1980). Child maltreatment: An ecological integration. *American Psychologist*, **35**(4), 320-335.
- Davis, M. H. (1980). A multidimensional approach to individual differences in empathy. *Journal Supplement Abstract Service Catalog of Selected Documents in Psychology*, **10**, 85.
- Davis, M. H. (1983). Measuring individual differ-

- ences in empathy: Evidence for a multidimensional approach. *Journal of Personality and Social Psychology*, **44**(1), 113-126.
- Eaton, J., Struthers, C. W., & Santelli, A. G. (2006). Dispositional and state forgiveness: The role of self-esteem, need for structure, and narcissism. *Personality and Individual Differences*, **41**(2), 371-380.
- Hillis, S., Mercy, J., Amobi, A. & Kress, H. (2016). Global Prevalence of Past-year Violence Against Children: A Systematic Review and Minimum Estimates. *Pediatrics*, **137**(3), e20154079.
- 井道 俊之・小山内 秀和・後藤 崇志・藤田 弥世・河村 悠太・Davis, M. H.・野村 理朗 (2017). 日本語版対人反応性指標の作成 心理学研究, **88**(1), 61-71.
- Hu, Y., Emery, H. T., Ravindran, N., & McElwain, N. L. (2020). Direct and indirect pathways from maternal and paternal empathy to young children's socioemotional functioning. *Journal of Family Psychology*, **34**(7), 825-835.
- 井潤 知美 (2010). Parenting Scale 日本語版の作成および因子構造の検討 心理学研究, **81**(5), 446-452.
- 厚生労働省 (2023). 児童虐待の定義と現状 厚生労働省 Retrieved from [https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kodomo/kodomo\\_kosodate/dv/about.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kodomo/kodomo_kosodate/dv/about.html)
- 李 璟媛・山下 亜紀子・津村 美穂 (2012). しつけと虐待に関する認識と実態 ー未就学児の保護者調査に基づいてー 日本家政学会誌, **63**(7), 379-390.
- Lounds, J. J., Borkowski, J. G., & Whitman, T. L., (2004). Reliability and Validity of the Mother-Child Neglect Scale. *Child Maltreatment*, **9**(4), 371-381.
- Maio, G. R., Thomas, G., Fincham, F. D., & Carnelley, K. B. (2008). Unraveling the role of forgiveness in family relationships. *Journal of Personality and Social Psychology*, **94**(2), 307-319.
- Manczak, E. M., DeLongis, A., & Chen, E. (2016). Does empathy have a cost? Diverging psychological and physiological effects within families. *Health Psychology*, **35**(3), 211-218.
- McCullough, M. E., Worthington, E. L., Jr., & Rachal, K. C. (1997). Interpersonal forgiving in close relationships. *Journal of Personality and Social Psychology*, **73**(2), 321-336.
- Meidan, A., & Uzefovsky, F. (2020). Child maltreatment risk mediates the association between maternal and child empathy. *Child Abuse & Neglect*, **106**, 104523.
- Miller, P. A., & Eisenberg, N. (1988). The relation of empathy to aggressive and externalizing/anti-social behavior. *Psychological Bulletin*, **103**(3), 324-344.
- 長内 綾・古川 真人 (2005). 日本語版 Heartland Forgiveness Scale の開発 昭和女子大学生生活心理研究所紀要, **8**, 51-57.
- Prez-Albeniz, A., & de Paul, J. (2004). Gender differences in empathy in parents at high- and low-risk of child physical abuse. *Child Abuse & Neglect*, **28**(3), 289-300.
- Rodrigo, M. A., León, I., García, L., Hernández-Cabrera, J. A. & Quiñones, I. (2020). Neglectful maternal caregiving involves altered brain volume in empathy-related areas. *Development & Psychopathology*, **32**(4), 1534-1543.
- 清水 裕士 (2016). フリーの統計分析ソフト HAD: 機能の紹介と統計学習・教育, 研究実践における利用方法の提案 メディア・情報・コミュニケーション研究, **1**, 59-73.
- Stern, J. A., Borelli, J. L. & Smiley, P. A. (2015). Assessing parental empathy: A role for empathy in child attachment. *Attachment & Human Development*, **17**(1), 1-22.
- Stith, S. M., Liu T., Davis, L. C., Boykin, E. L., Alder, M. C., Harris, J. M., Som, A., McPherson M. & Dees, J. E. M. E. G. (2009). Risk factors in child maltreatment: A meta-analytic review of the literature. *Aggression and violent Behavior*, **14**(1), 13-29.
- Straus, M. A., Hamby, S. L., Finkelhor, D., Moore, D. W., & Runyan, D. (1998). Identification of child maltreatment with the Parent-Child Conflict Tactics Scales: developmental and psychometric data for a national sample of American parents. *Child Abuse & Neglect*, **22**(4), 249-270.
- Thompson, L. Y., Snyder, C. R., Hoffman, L., Michael, S. T., Rasmussen, H. N., Billings, L. S., Heinze, L., Neufeld, J. E., Shorey, H. S., Roberts, J. C., & Roberts D. E. (2005). Dispositional forgiveness of self, others, and situations. *Journal of Personality*, **73**(2), 313-360.
- 常岡 充子・高野 陽太郎 (2012). 他視点取得

- の活性化による言語的攻撃の抑制 社会心理学研究, **27**(2), 93-100.
- Wade, T. J., Bowden, J. & Sites, H. J. (2017). Child Maltreatment and Motor Coordination Deficits among Preschool Children. *Journal of Child & Adolescent Trauma*, **11**(2), 159-162.
- Wang, Z., Li, W., Cui, N., Sun, X., Rong, T., Deng, Y., Meng, M., Shan, W., Zhang, Y., Ordway, M., Jiang, F. & Wang, G. (2022). The association between child maltreatment and sleep disturbances among preschoolers. *Child Abuse & Neglect*, **127**, 105525.
- Webb, J. R., Dula, C. S., & Brewer, K. (2012). Forgiveness and aggression among college students. *Journal of Spirituality in Mental Health*, **14**(1), 38-58.
- Whitaker, R. C., Phillips, S. M., Orzol, S. M. & Burdette, H. L. (2007). The association between maltreatment and obesity among preschool children. *Child Abuse & Neglect*, **31**(11-12), 1187-1199.